

曾野木地域 第2回ワークショップの結果概要（案）

【地域の課題とあり方】

■ 財政負担を将来に残さない

- ・ この地域は面積もあり、公民館周辺と団地周辺との2つに分かれているが、1つの中学校区に同じ施設を2つ作ることは難しいのは理解できる。
- ・ 新しい施設を作ることが難しいのであれば、既存施設の転用も検討したら良い。
- ・ 子ども、高齢者など各属性のための施設を複数作るのではなく、多様な世代が共有できる施設を作れば、公共施設の再構築につながり、財政負担も減少するだろう。
- ・ 公共施設の運営に行政、地域、民間が協働で取り組めば、将来的にはマンパワーや財政負担の軽減につながるのではないだろうか。
- ・ 財政状況の厳しさはわかるが、住民としては財政負担のことはあまり考えずにこの地域の明るい将来を考え、地域住民の暮らしの利便性を重視して意見交換をしたい。
- ・ これまで曾野木にあった施設が他の地区に移転してしまったことや、近隣地区では過去10年に立派な施設が複数できている状況を見ると、この地区になかなか目が向けられず、新たな施設をつくるのが難しいというのに納得がいかない気持ちがある。

■ 公共サービスの充実

- ・ 「子育てしやすいまち」「若い世代が住みやすいまち」を目指したい。そうなることが、青少年、子育て層、高齢者といったさまざまな世代が生活しやすい地域につながると思う。
- ・ 高齢者や子どもに加え、障がい者にとっても安心安全で元気に過ごせるまちを目指し、施設整備や地域のバリアフリー化を進めてほしい。
- ・ 地域住民としては施設の再編によってサービスの質や利便性を低下させたくない。

■地域のまとまり・中心性

- ・ 曾野木地区は1つの中学校区ではあるが一体的に考えるには範囲が広いので、どこかに施設をまとめようとするとう利便性が低下する地域が出てしまう。公民館周辺と市営住宅跡地周辺の2か所に拠点を作るのが良い。
- ・ 地区内に公共施設が分散しているので、施設をある一定のエリアにまとめても良いと思う。
- ・ 施設がまとまっていると1カ所で用事が済むが、避難所や子どもや高齢者のための施設などは分散していた方が利用しやすい。生活場面ごとの利便性を考えて、集約すべき機能と分散させた方が良い機能を整理してはどうか。
- ・ 公民館周辺と団地周辺のそれぞれに拠点ができると相互の交流が減ってしまう。地域としての一体感を生むという視点から考えると、2つの地区を結ぶ施設を中間に作るか、中心を1つにするのが良い。
- ・ 公民館周辺と団地周辺の両方に施設を作ることは財政的に難しいと思うので、各々の不便さの度合いが平等になる様に施設配置を考えるのが良い。

■地域の活性化

- ・ この地区になんとかして人を呼び寄せたい。そのためには大学や専門学校を誘致するといった活性化のための起爆剤が必要だ。
- ・ 保育園の充実、子育て施設やサービスの強化などにより、働く女性と専業主婦の双方を支援できれば、新たにこの地区に住む人が増え地区が活気づくのではないか。

■効率性

- ・ 対象世代ごとに施設やスペースを設けるのではなく、ひとつの施設のあるスペースを時間帯で分けて共有すれば効率が良くなる。

■利便性

- ・ バスの充実や駐車場の整備など、車を使える人も使えない人も気軽に公共施設への行き来ができるようにすることが大切だ。それが利用率の向上や活動の活性化につながる。
- ・ 施設を集約する場合は、利便性が確保できる様に施設までの交通サービスを充実することとセットで検討すべきだ。

■重視すべき地域づくりの視点

- ・ 公民館周辺と団地周辺の住民が、同じ曾野木地区で暮らしているという意識や、地区としての一体感を持つためにはどうしたら良いかという点が、この地区にとっての大きな課題だと思う。

【狙いと解決策】

■複合化・多機能化

- ・ 複合化や多機能化すれば多世代の交流が生まれる機会となるので、1つのスペースを複数の目的や対象者で使用することがよい。施設の効率的な利用にもなる。
- ・ 図書館に学習スペースを設け、また、公民館にカフェスペースを設けるなど、1つの施設に複数の機能を入れていけば、活動の幅が広がり利便性も高まる。
- ・ 施設統合や一部機能の移転によって現状の施設に空きスペースができた場合は、そこに新たな機能を複合することを検討してほしい。

■民間活力

- ・ 保育園の統合などで生まれた跡地は売却し、民間活力を使いながら、そこに曾野木地区住民のためになる施設ができると良い。
- ・ 地区内の農家との連携によって市場の開設や農業体験などを行い、農業と自然を生かした地域づくりを進めることで地域の活性化につなげたい。
- ・ 病院やスーパー、コミュニティバスなどは生活圏に必要な施設やサービスだが、行政の力だけでは整備が難しいので、施設整備と運営の両面で積極的に民間活力を導入してほしい。
- ・ 求められるサービスの全てを公共施設で賄うのではなく、民間施設との連携を強化してはどうか。高齢者の憩いの場としては民間のカフェを活用したり、コンビニを行政窓口に利用することや、集会やサークルに自治会館を使うなど。

■拠点施設

- ・ 限られた資金で複数の施設を作ると中途半端な施設になってしまう恐れがあるので、新しく1カ所施設を作り、その施設のグレードを上げることを考

えた方が良い。

- ・ 多世代のニーズに応えられる施設とするために、健康センター、広い学習スペースのある図書館、販売所、避難所などの機能を複合してはどうか。皆がそこに行くようになれば、地区の一体感を生むことができるだろう。
- ・ 長期間空地のままで放ったらかしにならない様にしてほしい。現状を大きく変えることには抵抗がある。現在の利便性を大きく損わないことに配慮し、新たに作る施設に何を複合するかを考えてほしい。
- ・ これまでは、コミュニティ協議会がコミュニティセンターを管理、運営してきたが、複合化、多機能化を視野に入れると、新たな運営形態を考える必要が出てくるのではないか。

■世代間交流

- ・ 世代を越えて、高齢者や子ども達が日常的に交わる機会を増やしたい。子供と一緒に調理をすることができる食に関するイベントは参加率が高く盛り上がるので、今よりも多くの人が集まれる調理室があると良い。

■高齢者支援

- ・ 高齢者が行っている活動を継続・拡大することが健康維持につながるため、活動の基盤となるサロンの設置などの支援ができると良い。
- ・ デイサービスを利用していない高齢者のための入浴施設が東曾野木の周辺になく、曾野木荘は継続利用されている方が多いので、東曾野木にも介助付きで入ることのできる入浴施設が必要だ。

■子育て支援・子育て世代支援

- ・ 未就学児と保護者が使える子育て支援センターを整備してほしい。子どもを気軽に遊ばせ、預けることができる施設や、地縁に縛られない緩やかなコミュニティがあれば、子育て世代が新たに引っ越してくるのではないか。
- ・ 保育園が統合した場合には、地元住民の子供が優先的に保育園に入れる様な配慮や、施設規模が大きければ感染症が拡大しやすくなるだろうことへの対策を考えてほしい。
- ・ 放課後の小学生の行き場がなくなっているのを、消防署跡地などを活用して、子供が集まって遊べる児童センターの様な場所があると良い。

- ・ ひまわりクラブは狭く、スペースが足りない。学校の空き教室などを使って、できるだけ学校や自宅に近い場所に遊びの場があると良い。
- ・ 中高生が溜まって話ができる場や、静かな環境で勉強できる学習スペースが地区内に必要だ。
- ・ 30～40代が個人や家族で使える公園、スポーツ施設などが地区内にあると良い。施設を整えるだけでなく、その世代にとって魅力的なイベントを開催したり、使いやすくなる様に託児サービスを充実させるなどの工夫も必要だ。
- ・ 中学校の保護者などは、地域での日頃のお付き合いの機会は少ないが、いざという時に助けが求められるような仕組みや、簡単に公共施設の情報が入手できるような工夫があると良い。

■安心・安全・健康

- ・ 備蓄品を揃えた避難所が地区内に分散配置され、水害時の避難場所になる高層の避難所があれば、災害への不安が軽減される。
- ・ 健康センターのように検診や健康指導を受けられる施設が地区内に必要だ。その際には高齢者だけでなく、子育て世代も利用できる様な工夫も求められる。

■住宅整備

- ・ 若い世帯や子育て世帯を増やすためには、まず住宅を供給する必要がある。農地の宅地化も考えるべきだ。

■使い方・運営（規制緩和など）

- ・ 公共施設は利用上のルールが多く、申請の手続きも面倒だ。組織化していない個人にとっても使いやすくすることが必要だ。例えば室内での飲食を許可するなど、利用上のルールを緩めれば、利用率が上がり、利用料の収入が増え、新たな人のつながりが生まれるきっかけにもなるのではないかな。
- ・ 施設が遠くなるなどの不便さは、住民同士の支えあいで解決できる部分があるのではないかな。支えあいの気持ちを生むには、曾野木が1つの地区であるという一体感が欠かせないし、そのための仕組みづくりも重要だ。
- ・ 建物だけを作っても利用率は上がらない。その場を利用する人や団体をつなぐ仕組みやイベントの企画力が欠けていることが問題だ。コーディネーター

となる人材の設置や育成が課題だ。

- ・ 利用申請の手間や利用のルールを簡素化することや、駐車場台数を十分に確保して利用しやすくするのであれば、公共施設の利用料を上げて構わない。
- ・ 公共施設の駐車場が無料のため、ずっと停めている人がおり、このため施設利用者が使えないという状況が起きている。利用マナーが悪いのであれば、低料金でもしっかり料金を取った方が良い。

■公共交通サービス

- ・ 施設を集約するにしても分散するにしても、各施設間や公民館周辺と団地周辺の2つのエリアを結ぶコミュニティバスが不可欠だ。民間や地域住民主導で実現することも考えたい。
- ・ 自動車利用者が多いにも関わらず公民館などの公共施設には駐車場が少ない。周辺の農地を転用するなどして、十分な駐車場を確保することを考えてほしい。
- ・ 徒歩での移動が安心してできる様に、公民館と団地地区との間に遊歩道を整備してほしい。歩くための道ができれば移動手段としてだけでなく、健康のためのウォーキングをする人も増えるのではないか。

【検討の進め方】

- ・ 3回のワークショップでは意見の共有や検討のための時間が足りず、意見がまとまらないのではないかと。進行状況によっては追加の回を設けることを考えてほしい。
- ・ 話し合いの回数を増やしても、討議するメンバーが同じなら内容もあまり変わらないと思う。コミュニティ会議の様なワークショップ以外の個別検討の場があるのなら、ワークショップは3回で十分ではないか。
- ・ ワークショップの時間が3時間近くあるのは長すぎる。参加者にとって負担になるので2時間程度のプログラムにしてほしい。
- ・ コミュニティ施設の運営を考える上で、運営が上手くいっている事例を紹介してもらえると役に立つのではないかと。コミュニティ協議会、民間組織、行政など、様々な母体が行っているケースを集め、それらについて学ぶ場を設けられると良い。
- ・ 平日午後から休日の午前に変更されたことで参加者が増えた。今後

もより多くの人が出席できるような時間帯になる様に考慮してほしい。

- ・ このワークショップは市営住宅跡地の活用を話し合うのが目的だと思っていたが、新潟市の公共施設全体の話をしているので、この場でどの様な結論を出すのかわからない。テーマが抽象的なので意見が出しづらい。
- ・ 地域の団体の代表としてこのワークショップに参加しているので、個人的な意見を言えば良いのか、団体としての意見を言えば良いのか困るところがある。